

原著**心臓カテーテル検査におけるパンフレット作成の試み**

高橋 奈美 本木 洋子
遠山 由祈 山下 千鶴

今田 純子 市山まどか
高橋 亜紀 佐々木律子

はじめに

近年、循環器疾患の中でも虚血性心疾患の占める割合が増加傾向にある¹⁾。当院においても急性心筋梗塞・大動脈瘤・心臓弁膜症等の治療と診断の目的で、心臓カテーテル検査が実施されており、年々件数も増加の一途をたどっている。

これまで心臓カテーテル検査を受ける患者への説明は、パンフレットを用意せず検査前日に看護婦が口頭で行ってきたが、患者は高齢者が多く、現在の状態では説明不足があったのではないかと考えた^{2) 3)}。また、説明に対する理解が不十分な状態で検査を受けていることが考えられ、検査後に問題が生じることもでてきた。

Key Words : 冠動脈造影検査
(Coronary angiography)、
心臓カテーテル検査
(Cardiac catheterization)、
インフォームド・コンセント
(Informed consent)
合併症 (Complication)

Effects of pamphlet for patients to examine in coronary angiography

Nami Takahashi, Youko Motoki, Junko Imada,
Madoka Ichiyama, Yuki Touyama,
Chizuru Yamasita, Aki Takahashi, Ritsuko Sasaki,

The West of 4th Floor Nurse Station, Division of
Cardiovascular and Pulmonary Medicine,
Nayoro City Hospital

名寄市立総合病院 4階西病棟看護科 循環器呼吸器内科

以上のことにより、検査については患者の十分な理解と協力を得て患者の安全を守ることと看護者として一貫性のある説明を行うために、心臓カテーテル検査についてのパンフレットの作成が必要と考えた^{4) 5)}。

パンフレット作成までの過程及び実際に使用した結果をまとめて報告する。

対象と方法

心臓カテーテル検査を受ける患者に対してパンフレットを用いて説明し理解と協力を得て検査後の安全を守ることを目的とした。1998年6月1日から1998年9月22日までの期間に70~90才の検査予定患者についてパンフレットを使用しないで行った20名とパンフレットを使用した場合の20名、合計40名に聞き取り調査を行い比較検討した。また、パンフレット使用後の検査について連続97件において問題発生の有無とその内容を調査した。

結果

心臓カテーテル検査についてパンフレットがあった方が良いと答えた患者は、パンフレット使用前で78%、使用後は100%であった(図1)。聞き取り調査の結果では、パンフレット使用前では質問項目(1)から(8)について「十分な説明があった」と答えた患者は53%~82%であったのに対し、パンフレット使用後ではすべての質問項目で100%だった(図2)。特に患者自身の理解と注意がもっとも必要な(8)の項目「検査後から翌日までの安静度」について、「検査前に十分な説明があった」と答えたのはパンフレット使用前

では 76% であったのに対し使用後では 100% と増加した（図 2）。

パンフレット使用後の調査で問題が発生したのは、足の屈曲が原因で穿刺部から出血を起こした 1 件のみであった。この患者は「足を曲げたのがいけなかった」とその原因にきずいており大事には至らなかった。一方、パンフレットを用いて繰

り返し説明しても、検査前には理解できたが、検査時には忘れてしまうという高齢者もあった。

また、パンフレット使用後の聞き取りでは、「イラストが入っていてわかりやすい」「字の大きさが調度良い」「安心できる」「心の準備ができる」などの患者の好評も聞かれた。

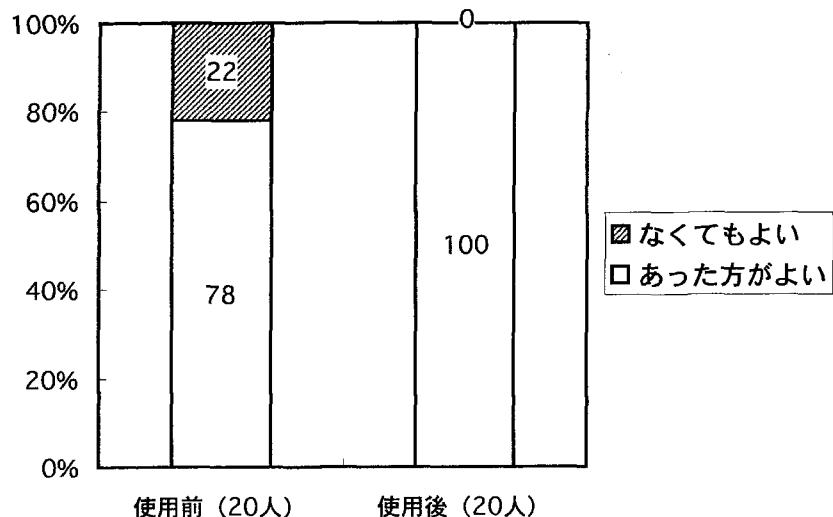


図 1 心臓カテーテル検査についてのパンフレットがあつた方が良いと思いますか？

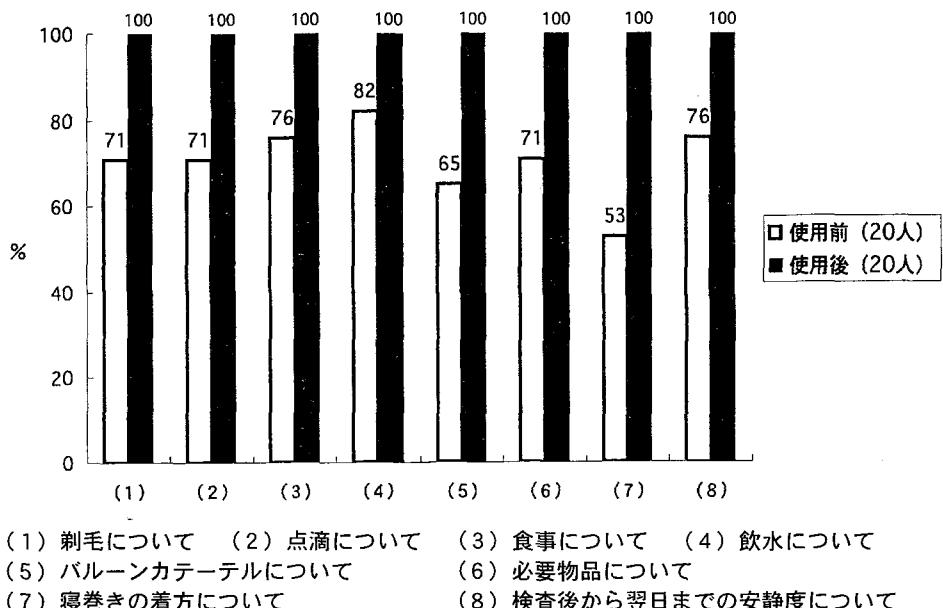


図 2 (1)～(8) の質問に対し十分な説明があった

考 察

当病棟での心臓カテーテル検査を受ける患者は高齢者が多い。高齢者の特徴としては、老化に伴い視力が低下することにより文字その他の判断が困難になることである^{5) 6)}。また、十分な明るさの元でも小さな文字は読みにくく疲労感や頭重感などを生じやすいことである。精神的機能の変化としては、新しいことを覚える記憶力や保持している記憶を必要なときに取り出す想起力は低下することである。そこで、パンフレット作成に当たりこのような高齢者の特徴をふまえて、字体・文字の大きさ・行間（空間）・イラスト・ページ数・医療用語の排除を考慮して作成した。結果として、「イラストが入ってわかりやすい」「字の大きさが調度良い」「見直しができる」「安心できる」「心の準備ができる」という患者の生の意見を聞くことができ大方の意見は好評だった。また、「パンフレットがあった方が良い」といった回答がパンフレット使用後で増加した点はこれらの意見が反映していると考えられた。

パンフレットを作成し導入することにより患者の意見と協力が得られ、安全を守るという目的が達成された。今回の研究では対象が高齢者に限られていたが、虚血性心疾患が増加・若年化している近年、あらゆる年齢層の検査対象者に対応できるパンフレットの作成および説明方法をさらに検討したいと考えた。

最後に、アンケートに協力していただいた患者の皆様、病棟スタッフの方々に深謝いたします。なお、本文の要旨は、1999年10月21日、第38回全国自治体病院学会（福岡）において発表した。

文 献

- 1) 国民衛生の動向 44：厚生統計協会：1997.
- 2) 井川幸雄、ほか：マンガでわかる検査の知識－検診・ドックの不安解消。保健同人社：94-97、1992.
- 3) 安藤幸夫：検査の手引き－病院の検査がわかる。小学館：52-53、1993.
- 4) 日野原重明、ほか：ナーシングマニュアル3 狹心症・心筋梗塞マニュアル。学習研究社：85-105、1987.
- 5) 山本幸江：エキスパートナース MOOK18 侵襲的検査とその看護－生体に対する侵襲を伴う検査を安全・安楽に。照林社：18-23、1995.
- 6) 氷見和久：血管造影－心・血管。臨床看護 23：933-938、1997.
- 7) 鈴木正幸：看護のための教育学－「知る」から「分かる」への教育。メジカルフレンド社：1993.

